

2014年1月8日

各位

不動産投資信託証券発行者
日本ロジスティクスファンド投資法人
代表者名 執行役員 川島 高之
(コード番号：8967)

資産運用会社
三井物産ロジスティクス・パートナーズ株式会社
代表者名 代表取締役 川島 高之
問い合わせ先 財務企画部シニアマネージャー 関口 亮太
TEL.03-3238-7171

平成25年1月期（平成24年8月1日～平成25年1月31日）資産運用報告の
一部訂正に関するお知らせ

日本ロジスティクスファンド投資法人の平成25年1月期(平成24年8月1日～平成25年1月31日)資産運用報告の一部に誤りがありましたので、下記の通り訂正します(訂正箇所は下線にて表示しています)。

記

17 ページ

Ⅲ 資産運用報告

1. 資産運用の概況

(5) 次期の見通し

A. 環境認識

【訂正前】

先行きの日本経済は、海外の景気減速や為替市場の動向、地政学リスク等の不透明な要素が複数あるものの、政府による各種経済対策の政策効果に加え、食料品や日用雑貨等を中心とした個人消費の安定的な推移を背景に穏やかな回復経路に復していくと予想されます。

(中略)

本投資法人は、新成長方針「stable + Growth」に基づき、従来からの安定性を維持しながら投資主価値の成長を目指します。成長戦略の柱として、「OBR (Own Book Redevelopment=投資法人自らが行う保有物件の再開発)」を積極的に検討する方針であり、大東物流センターの一部建替事業に続く第2弾として八千代物流センターの再開発事業を決定しました。「OBR」の実施には①開発実績、②資産運用会社の専門性、③再開発余地のあるポートフォリオ、④財務健全性、⑤自由度の高い運用が必要であると考えており、その全てを持つ本投資法人だからこそ実施可能な成長戦略であると考えています。本投資法人は「物流施設特化型REIT」のパイオニアとして、独自の成長戦略に基づき「stable + Growth」の実現を目指します。

【訂正後】

先行きの日本経済は、海外の景気減速や為替市場の動向、地政学リスク等の不透明な要素が複数あるものの、政府による各種経済対策の政策効果に加え、食料品や日用雑貨等を中心とした個人消費の安定的な推移を背景に穏やかな回復経路に復していくと予想されます。

(中略)

(削除)

18 ページ

Ⅲ 資産運用報告

1. 資産運用の概況

(6) 決算後に生じた重要な事実

【訂正前】

本投資法人の資産運用会社は、平成 25 年 3 月 13 日開催の取締役会において、下記内容の再開発事業の実施について決定しました。

(イ) 再開発事業の概要

八千代物流センターにおける資産価値の最大化を図るため、本投資法人による再開発事業を行うものです。

(ロ) 再開発事業の内容

資産の名称 : 八千代物流センター (M-11)

建築コスト (予定) : 5,797 百万円

資金調達方法 : 未定

解体工事期間 (予定) : 平成 25 年 4 月～平成 25 年 7 月

新築工事期間 (予定) : 平成 25 年 10 月～平成 26 年 9 月

竣工予定日 : 平成 26 年 9 月

なお、本事業に係る解体工事に伴う費用は総額 622 百万円 (固定資産除却損 349 百万円及び解体・除却関連費用 273 百万円) を見込んでおり、当該費用は解体工事を実施する平成 25 年 7 月期に計上される予定です。

【訂正後】

該当事項はありません。

以 上